

【松江市】
校務DX計画

1 次世代の校務DXの方向性

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」（令和5年3月）において、以下のような事柄を実現する必要があるとされている。

働き方改革の 観点	① 汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする
データ連携の 観点	② 校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化を組み合わせることで、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とする
レジリエンスの 観点	③ 校務系・学習系システムを円滑に接続させることにより、それぞれのシステムが持つデータを低コスト・リアルタイムで連携させることを可能とする ④ ③によりデータ連携が容易となることを踏まえ、各種データをダッシュボード機能により統合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図ることを可能とする
	⑤ 学校の業務に関する主要なシステムをクラウド化することにより、大規模災害等が起きた場合にも業務の継続性を確保することを可能とする

（文部科学省ホームページ GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議 報告等資料）

2 現状と分析

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」（令和6年12月時点）における結果の一部は以下のとおりとなっている。

※回答の「半分以上がデジタル化している」を合計したもの

教職員と保護者間の連絡のデジタル化

質 問	松江市	全 国
欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか。	58.1%	75.5%
保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	41.8%	60.6%
学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。	16.3%	48.9%

教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

質 問	松江市	全 国
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていますか。※「毎日持ち帰っている」回答を抽出	44.2%	39.1%
宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。	23.3%	17.1%
児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。	7.0%	28.2%

学校内の連絡のデジタル化

質 問	松江市	全 国
教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	55.8%	77.0%
教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。	27.9%	39.7%
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。	86.0%	76.5%

その他

質 問	松江市	全 国
「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にFAXを使用していますか。※「使用していない」を抽出	14.0%	22.9%
業務で押印が必要な書類はありますか。※「ない」の回答を抽出	0.0%	7.3%

結果、全体として全国平均よりも低い回答が多く、デジタル化が進んでいないことがわかった。ただし、1人1台端末の持ち帰りは全国平均よりも高かったこと、また別の調査では、授業での電子黒板の使用率「週3日以上」が100%となっており、「ICT機器の活用は進んでいるものの校務DXが進んでいない」と分析している。

このため、校務DXの具体的な取り組みを各学校や教職員へ情報提供するとともに、支援を強化することで活用を推進していく必要がある。

3 今後について

日常の校務でICTを活用することにより、効果的で効率的な学校運営と働き方改革を推進する。情報のデジタル化やFAX・押印の廃止による作業軽減やペーパーレス化を進めるとともに、以下の3点を重点として校務DXに取り組む。

(1) クラウドの活用

教職員の情報共有や日常の校務にクラウドツールを積極的に活用し、働き方改革を推進する。また、すでに教職員用の学習用と校務用の端末は1台化しているため、次期の校務支援システムの更新に合わせ、ロケーションフリーの実現といった次世代校務支援システムの導入を検討する。

(2) データの利活用

1人1台端末の更新に合わせ、ダッシュボード機能の利活用について検討します、各学習データ等を安全に管理し、効果的に活用することで個別最適な学びの実現をめざします。

(3) セキュリティ対策

クラウドを使った情報資産の活用や、校務支援システムのクラウド化を検討するにあたって、高いセキュリティの確保に継続的に取り組んでいく。また、高いセキュリティを確保したうえで、大規模災害や感染症等による緊急時にも、校務が滞りなく行われるよう校務支援システムのクラウド化を検討していく。